

# ほっとほっとタイムズ—第2号—

2023.4.25

井荻小学校 特別支援教育校内委員会

先月の保護者会に御出席いただき、ありがとうございました。その保護者会の席でもご紹介した「特別支援教室」について、今回は少し詳しくお知らせしたいと思います。

どの子どもそれぞれの学級の中でみんなと一緒に学んだり遊んだりしたいと願っていると思いますが、時々つらい思いをする子供たちがいて、その子たちのために2つの特別支援教室が用意されています。一つが「きこえとことばの教室」もう一つが「特別支援教室」と呼ばれるものです。(学校に来れない子たちのためには「さざんか教室」という子どもの居場所もあります。)

「きこえとことばの教室」というのは、聞こえにくさがあったり発音できない音があったり、言葉が詰まって出にくいことがあったり言葉の理解や表現が苦手な子供たちを支援するところです。基本的に週1回、指導の時間がありますが、本校の場合、高井戸第四小学校まで保護者の方に送り迎えしていただくことになります。今年度から申し込みが、4月、9月、12月の3回になりました。気になる場合は、早めにお声掛けください。

「特別支援教室」は本校では「いおぎ教室」と呼んでいます。週1~2時間(木曜か金曜)、校内にある「いおぎ教室」で巡回の先生(本校は高井戸第四小から)の指導を受けます。支援対象は「発達障害の子どもたち」ということになっています。「特別支援教室」の申し込みは年2回(後期6/7 次年度前期9/29)の2回しかありません。しかも、申し込むためには検査を受けていることが必要で、区で検査を申し込む場合は締め切りが前期4月27日、後期7月末ととても早いので、気になる場合はとにかく早めにお声掛けください。

では、「発達障害の子どもたち」とはどんな子どもを指すのでしょうか。「発達障害」—最近、マスコミでよく取り上げられていますが、なかなかわかりにくいですね。一般的にはADHD(注意欠如多動性障害)、ASD(自閉症スペクトラム障害)、LD(学習障害)の総称と言われています。杉並区のパンフレットでは、「気持ちの切り替えが難しい」「コミュニケーションがうまく取れない」「運動や体の動きが器用でない」「衝動的に動いてしまう」「不注意で気が散りやすい」「勉強に得意不得意があり、力を発揮しにくい」子どもたちという表現になっています。

こういう言葉にしてみると、「えっ、それってうちの子?」って誰もが思いたくなると思います。悩みがあれば気が散りやすいでしょうし、元気がなかったり自信がなかったりすればコミュニケーションも取りにくいでしょうし、勉強に得手不得手があるのも誰にも言えること。そう、「障害」と呼ぶにはちょっと抵抗を感じる中身です。しかも、原因もあまりはっきりとはしていない。つまり、原因をはっきり突き詰めて手だてをとるというより、その子の現状をしっかりとつかんでその「困り感」に寄り添って支援をしていくことが求められていると思うのです。何より心配なのは「自分は失敗ばかりするダメな子」と本人が思って(二次障害)しまわないようにしていくことだと考えます。

「特別支援教室」は、一人一人の困り感に寄り添い、苦手を克服し、自己肯定感を伸ばしていくお手伝いをするところです。もちろん、支援は早ければ早いほど良いと考えています。ただ、望めば誰でも入れるわけではありません。申請のためには、保護者の申請書や学校からの書類のほかに、その子の能力に偏りがあるかどうかを確かめるための検査結果が必要となります。全体の知能は高くても、個の中で得意分野と苦手分野に大きな開きがあると、できない自分に苛立ったり自己肯定感が落ちてしまったりするのです。

私たち大人がすべきことは、病名をつけることではなく(病名は原因を表すものではなく、ただ、状態を表すものであることが多いです)、本人の困り感に寄り添い、どの様に支援すれば助けてやれるかを考えて実行することではないでしょうか。それは、保護者の皆さんも教師の私たちも同じであると思います。

どの子どものびのびと自分を磨いていけるよう、一緒に頑張りましょう。

